

源氏物語

第九卷

玉上琢磨

訳注

角川文庫



~~もののがたり~~
源氏物語

第九卷

たまがみたく や
玉上琢彌 = 訳注



角川文庫 2215

昭和四十七年七月三十日 初版発行
昭和六十二年七月二十日 八版発行

発行者——角川春樹
発行所——株式会社角川書店

東京都千代田区富士見二一十三一三
電話 編集部(03)1138-18451
営業部(03)1138-18511
■ 101 振替東京③一九五二〇八

印刷所——暁印刷 製本所——大谷製本

装幀者——杉浦康平

落丁・乱丁本はお取替えいたします。
定価はカバーに明記しております。

Printed in Japan

ISBN4-04-402409-X C0193

源氏物語
付 現代語訳 第九巻
玉上琢磨=訳注



凡例

- 一 底本は、定家自筆本の存する巻はこれを用い、存しない巻で明融撰本の存する巻はこれを用い、その他は、池田亀鑑博士の「源氏物語大成」の底本である飛鳥井雅康等筆本を用いる。貴重な典籍の使用を許された所蔵者各位に深謝する。
- 二 これら底本を改めた場合は、本文の右傍に*印を付し、冊の末に表示する。注意すべき異同は、本文の右傍に**印を付し、脚注欄に異文を掲げ、必要あれば括弧して訳を付した。
- 三 本文は仮名遣いを正し、適宜に漢字をあて、句読点を付し、会話には「」を付して話者の名を括弧内に小字で記した。作中人物の心を述べた文にも「」を付したことがある。すべて分かりやすくすることを主旨とし、必ずしも統一を計らず、繁雑になることを避けた。また、段落を設け、その要目を脚注欄に掲げた。
- 四 脚注欄は、段落ごとに要目を掲げ、注意すべき異文を**印を付して掲げたほか、引き歌・故事出典・有職故実などを記し、さらに語義に及んだ。訳文で分かりにくい嫌いのあるばかり、脚注で補うように努めたのである。
- 五 訳文は、独立して読めるように注意したが、原文から離れすぎないように注意した。読者が原文を味わわれんことを望むからである。

六 既刊の分に収録された巻を参照してほしい場合、この文庫本の頁数をかかげた。

七 文庫本は簡略を旨とするから、原文の美しさ、おもしろさの説明や、時代と背景の説明その他、省略しなければならなかつた事が多い。角川書店から全巻にわたり鑑賞を書き試みた「源氏物語評釈」（全十二冊・別巻二冊）を刊行した。合わせ見られれば幸である。

目
次

系凡圖例

本文

早
蕨

- 一 春、中の宮の悲しみ（やぶし分かねば、春の光を見給ふにつけても）
二 あざりの贈り物（阿闍梨のもとより、年あらたまりては）
三 姫宮を思う薰（いとさかりにほひ多くおはする人の）
四 薰、匂宮を訪う（内宴などものさわがしきころ過ぐして）
五 薰、匂宮を訪う（かしこにも、よき若人童など求めて）
六 中の宮、上京の予定（かしこにも、よき若人童など求めて）
七 上京の前日、薰来訪（みづからは、わたり給はむこと明日との）
八 薰、弁の尼と語る（弁ぞ、かやうの御供にも、思ひかけず長き命）
九 中の宮と弁の尼の別れ（思はし宣へるさまを語りて、弁は）
10 中の宮、上京（皆かきはらひ、よろづとりしたゝめて）
11 中の宮、匂宮邸に入る（宵うち過ぎてぞおはし着きたる）

校本
注文

现代訳語

元五四五三二二一

三十六
三十五
三十四
三十三
三十二
三十一
三十
二十九
二十八
二十七
二十六
二十五
二十四
二十三
二十二
二十一
二十
十九
十八
十七
十六
十五
十四
十三
十二
十一
十
九
八
七
六
五
四
三
二
一

宿木

- 三 夕霧の六の君の裳着（右のおほとのは、六の君を）
- 二 薫、匂宮夫妻を訪う（花さかりの程、二条の院の桜を）
- 一 藤壺の女御の女二の宮（その頃、藤壺と聞こゆるは）
- 二 裳着を前に、母女御の死（十四になり給ふ年、御裳着）
- 三 今上の御憂慮（宮はまして、若き御こゝちに、心細く）
- 四 薫に御降嫁を望まれる（御まへの薺うつろひはてて盛りなるころ）
- 五 主上、薰と碁を打つ（御碁などうたせ給ふ。暮れ行くまゝに）
- 六 薫、御降嫁を望まず（かやうに、折々ほのめかせ給ふ）
- 七 夕霧、六の君を匂宮に、と思う（かゝることを、右の大殿はの聞き）
- 八 中宮、匂宮を説得（をんなこうしろめたげなる世の末にて）
- 九 薫も女二の宮の御降嫁を承諾（女二の宮も御服はてねれば）
- 一〇 匂宮と六の君の結婚決定（右の大殿には急ぎ立ちて、八月ばかりに）
- 一一 中の宮の苦慮（故姫君の、いとしどけなげに）
- 一二 中の宮妊娠（宮は常よりも、あはれになつかしく）
- 一三 中の宮、六の君との結婚話を聞き知る（八月になりねれば、その日）
- 一四 薫、中の宮に同情する（中納言殿も、いといとほしきわざかな）
- 一五 薫の反省（なげのすさびにものを言ひふれ）
- 一六 薫、中の宮を訪問（人召して、北の院に参らむに）
- 一七 二条の院の朝（明けはなるゝまゝに、霧立ちみちたる空をかしきに）
- 一八 薫の見舞（るとよりも、けはひはやりかにをゝしくなどは）
- 一九 宇治の宮の荒廃と六条の院の荒廃（秋の空はいま少しながめ）

二〇 中の宮、宇治へ行きたい。と言う（昔の人をいとしも思ひきこえ）

三 蒸、退出（日さしあがりて、人々参り集まりなどすれば）

三 猿の精進、女三の宮の心配（なほ、この御けはひありさまを聞き）

三 結婚の夜、夕暮、勾宮を持つ（右のおほい殿には、六条の院の）

三 即ち、中の高と離れて行く（結は、ながく今ならとも見えじ）

母の胸の間に、(夜き程より心細くあはれなる身どもこと)

夫、六の君に満足（富は、少と心苦しく思しながら）

因縁、帰母（麗の詔うども、対）はおとしも或度り給なず。

元抱病、井の音と語る（寝ぐたれの脚かたわら）「おめでたく」

母の娘、娘の娘など、既給を異なる夫があるが、

第六の音の返歌（あはのきかみがり）と云ふ事である。

井の宿の店頭（おどる大木みへに）は正義にかゝれんべやねだるを

の事があつた。がとがまじてかるかわくはじやまごとに

中の甘美治を思ひ（宮は常よりわあにれにんせうどいたるを主に
井の音のよすせ（今首は三三三二出が合へて）

新番の第三回（二月三日）はまだ更けぬに出で給ひかり

新婚の第三日（冬の日は）おおいの宮なやましけにおけし祭す

第三 煙の反應（中継語駕の街せんのなかに）

美也宮と六の君（宮は、女君の御ありさせ、届見きこえ給ふ）

玉住宮の夜がれ 中の宮と薙の対面 [かくて後、二条の院に]

天 猿 第中に招じ入れられる（女君をおやしかりし夜のことなど）

新義の富をへぐれ（女）をうやまな心事」と思ふ

蒸、事がしに帰る（まだ南と思ひづれど、あかつき近うなりけるを）

■ 猿の文に、中の宮の返事（まだいと深きあしたに御文あり）

三 煙の苦惱（すこし世の中をも知り給へるけにやん

四 句宮、中の宮と語る（宮は、日頃になりにけるは）
 五 薫の移り香を怪しむ（さても、あさましくたゆめへへ）
 六 句宮、中の宮を責める（かばかりにては、のこりありてしもあるじ）
 七 句宮、中の宮を捨てえず（またの日も、心のどかに大殿ごもり起きて）
 八 薫の反省、中の宮に衣裳を贈る（中納言の君は、かく宮のこもり）
 九 薫の後見ぶり（誰かは、なにことをも後見かしつき聞こゆる人の）
 十 薫の文、中の宮の悩み（かくて、なほ、いかでうしろやすく）
 十一 薫、中の宮を訪う（男君も、しひて、思ひわびて）
 十二 中の宮、女房をそばにおく（ほとほのかに、時々物宣ふ御け）はひの
 十三 両人の応酬（なにごとにつけても、故君の御ことをぞ）
 十四 薫、宇治に姫宮の人形をおく願（外の方をながめいだしたれば）
 十五 中の宮、異母妹のことを言う（年ごろは世にやあらむとも）
 十六 中の宮去り、薰帰る（さりげなくて、かくうるさき心を）
 十七 薫の煩悶（かくのみ思ひてはいかゞすべからむ）
 十八 九月二十よ日、薰、宇治に行く（宇治の宮を久しう見給はぬ時は）
 十九 あさりに改築を相談（阿闍梨召して、例の、かの御忌日の經仏）
 二十 弁の尼の昔物語（この度ばかりこそ見め、と思して）
 二十一 弁の尼に仲介を依頼（くはしく聞きあきらめ給ひて、さらば）
 二十二 朝、帰京に際し、賜わり物（明けぬれば帰り給はむとて）
 二十三 薫より中の宮に文（宮に紅葉奉れ給へれば）
 二十四 句宮琵琶をひき、中の宮等を合奏（菊の、まだよくも移ろひはてや）
 二十五 薫のやきもち（枯れへなる前栽の中に、尾花の）

タヌ右大臣、迎えに来る（御琴ども教へ奉りなどして）
 中の宮出産の見舞、諸方より（正月つゞもりがたより）
 女二の宮の装着の準備（中納言の君は、宮の思しきわぐに劣らず）
 薫、權大納言右大将に昇進（一月のつゝたち頃に、なほしものと）
 中の宮、男子を生む、薰養（からうじてその晩に、男にて生まれ）
 女二の宮の装着、薰と結婚（かくでその月の二十日余りにぞ）
 結婚第三夜（三日の夜は、大薰卿よりはじめて）
 女二の宮を三条の宮に迎える準備（かくてのちは、しのびくに）
 中の宮の若君の五十日の祝（宮の若君の五十日になり給ふ日數へ）
 薫、中の宮と語る（みづからも、例の、宮のおはしまさぬひまに）
 薫、若君を見る（若君をせちにゆかしがり聞こえ給へば）
 藤壺で藤の花の宴（夏にならば、三条の宮ふたがる方になりぬべし）
 薫、天盃を賜わる（宮の御方より、粉熟まあらせ給へり）
 按察使の大納言うらやましがる（按察使の大納言は、われこそ）
 歌の披露（紙燭として歌ども奉る。文台のもとに寄りつゝ）
 御遊び（夜ふくるまゝに、御遊びいとおもしろし）
 女二の宮、三条の宮に退出（そのよさりなむ、宮まがでさせ舉り）
 薫、宇治にゆき、常陸殿の女を見る（賀茂の祭など、騒がしき程）
 すき見（御供の人も、みな狩衣姿にて）
 常陸殿の女のさま（例の御こと。こなたはさきへも下ろしこめで）
 女房のさま（やう／＼腰痛きまで立ちすくみ給へど）
 弁の尼、女に挨拶（尼君は、この殿の御方にも）
 薫、女を見る（あはれなりける人かな。かゝりけるものを）

106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532
 533
 534
 535
 536
 537
 538
 539
 540
 541
 542
 543
 544
 545
 546
 547
 548
 549
 550
 551
 552
 553
 554
 555
 556
 557
 558
 559
 560
 561
 562
 563
 564
 565
 566
 567
 568
 569
 570
 571
 572
 573
 574
 575
 576
 577
 578
 579
 580
 581
 582
 583
 584
 585
 586
 587
 588
 589
 590
 591
 592
 593
 594
 595
 596
 597
 598
 599
 600
 601
 602
 603
 604
 605
 606
 607
 608
 609
 610
 611
 612
 613
 614
 615
 616
 617
 618
 619
 620
 621
 622
 623
 624
 625
 626
 627
 628
 629
 630
 631
 632
 633
 634
 635
 636
 637
 638
 639
 640
 641
 642
 643
 644
 645
 646
 647
 648
 649
 650
 651
 652
 653
 654
 655
 656
 657
 658
 659
 660
 661
 662
 663
 664
 665
 666
 667
 668
 669
 670
 671
 672
 673
 674
 675
 676
 677
 678
 679
 680
 681
 682
 683
 684
 685
 686
 687
 688
 689
 690
 691
 692
 693
 694
 695
 696
 697
 698
 699
 700
 701
 702
 703
 704
 705
 706
 707
 708
 709
 710
 711
 712
 713
 714
 715
 716
 717
 718
 719
 720
 721
 722
 723
 724
 725
 726
 727
 728
 729
 730
 731
 732
 733
 734
 735
 736
 737
 738
 739
 740
 741
 742
 743
 744
 745
 746
 747
 748
 749
 750
 751
 752
 753
 754
 755
 756
 757
 758
 759
 760
 761
 762
 763
 764
 765
 766
 767
 768
 769
 770
 771
 772
 773
 774
 775
 776
 777
 778
 779
 780
 781
 782
 783
 784
 785
 786
 787
 788
 789
 790
 791
 792
 793
 794
 795
 796
 797
 798
 799
 800
 801
 802
 803
 804
 805
 806
 807
 808
 809
 8010
 8011
 8012
 8013
 8014
 8015
 8016
 8017
 8018
 8019
 8020
 8021
 8022
 8023
 8024
 8025
 8026
 8027
 8028
 8029
 8030
 8031
 8032
 8033
 8034
 8035
 8036
 8037
 8038
 8039
 8040
 8041
 8042
 8043
 8044
 8045
 8046
 8047
 8048
 8049
 8050
 8051
 8052
 8053
 8054
 8055
 8056
 8057
 8058
 8059
 8060
 8061
 8062
 8063
 8064
 8065
 8066
 8067
 8068
 8069
 8070
 8071
 8072
 8073
 8074
 8075
 8076
 8077
 8078
 8079
 8080
 8081
 8082
 8083
 8084
 8085
 8086
 8087
 8088
 8089
 8090
 8091
 8092
 8093
 8094
 8095
 8096
 8097
 8098
 8099
 80100
 80101
 80102
 80103
 80104
 80105
 80106
 80107
 80108
 80109
 80110
 80111
 80112
 80113
 80114
 80115
 80116
 80117
 80118
 80119
 80120
 80121
 80122
 80123
 80124
 80125
 80126
 80127
 80128
 80129
 80130
 80131
 80132
 80133
 80134
 80135
 80136
 80137
 80138
 80139
 80140
 80141
 80142
 80143
 80144
 80145
 80146
 80147
 80148
 80149
 80150
 80151
 80152
 80153
 80154
 80155
 80156
 80157
 80158
 80159
 80160
 80161
 80162
 80163
 80164
 80165
 80166
 80167
 80168
 80169
 80170
 80171
 80172
 80173
 80174
 80175
 80176
 80177
 80178
 80179
 80180
 80181
 80182
 80183
 80184
 80185
 80186
 80187
 80188
 80189
 80190
 80191
 80192
 80193
 80194
 80195
 80196
 80197
 80198
 80199
 80200
 80201
 80202
 80203
 80204
 80205
 80206
 80207
 80208
 80209
 80210
 80211
 80212
 80213
 80214
 80215
 80216
 80217
 80218
 80219
 80220
 80221
 80222
 80223
 80224
 80225
 80226
 80227
 80228
 80229
 80230
 80231
 80232
 80233
 80234
 80235
 80236
 80237
 80238
 80239
 80240
 80241
 80242
 80243
 80244
 80245
 80246
 80247
 80248
 80249
 80250
 80251
 80252
 80253
 80254
 80255
 80256
 80257
 80258
 80259
 80260
 80261
 80262
 80263
 80264
 80265
 80266
 80267
 80268
 80269
 80270
 80271
 80272
 80273
 80274
 80275
 80276
 80277
 80278
 80279
 80280
 80281
 80282
 80283
 80284
 80285
 80286
 80287
 80288
 80289
 80290
 80291
 80292
 80293
 80294
 80295
 80296
 80297
 80298
 80299
 80300
 80301
 80302
 80303
 80304
 80305
 80306
 80307
 80308
 80309
 80310
 80311
 80312
 80313
 80314
 80315
 80316
 80317
 80318
 80319
 80320
 80321
 80322
 80323
 80324
 80325
 80326
 80327
 80328
 80329
 80330
 80331
 80332
 80333
 80334
 80335
 80336
 80337
 80338
 80339
 80340
 80341
 80342
 80343
 80344
 80345
 80346
 80347
 80348
 80349
 80350
 80351
 80352
 80353
 80354
 80355
 80356
 80357
 80358
 80359
 80360
 80361
 80362
 80363
 80364
 80365
 80366
 80367
 80368
 80369
 80370
 80371
 80372
 80373
 80374
 80375
 80376
 80377
 80378
 80379
 80380
 80381
 80382
 80383
 80384
 80385
 80386
 80387
 80388
 80389
 80390
 80391
 80392
 80393
 80394
 80395
 80396
 80397
 80398
 80399
 80400
 80401
 80402
 80403
 80404
 80405
 80406
 80407
 80408
 80409
 80410
 80411
 80412
 80413
 80414
 80415
 80416
 80417
 80418
 80419
 80420
 80421
 80422
 80423
 80424
 80425
 80426
 80427
 80428
 80429
 80430
 80431
 80432
 80433
 80434
 80435
 80436
 80437
 80438
 80439
 80440
 80441
 80442
 80443
 80444
 80445
 80446
 80447
 80448
 80449
 80450
 80451
 80452
 80453
 80454
 80455
 80456
 80457
 80458
 80459
 80460
 80461
 80462
 80463
 80464
 80465
 80466
 80467
 80468
 80469
 80470
 80471
 80472
 80473
 80474
 80475
 80476
 80477
 80478
 80479
 80480
 80481
 80482
 80483
 80484
 80485
 80486
 80487
 80488
 80489
 80490
 80491
 80492
 80493
 80494
 80495
 80496
 80497
 80498
 80499
 80500
 80501
 80502
 80503
 80504
 80505
 80506
 80507
 80508
 80509
 80510
 80511
 80512
 80513
 80514
 80515
 80516
 80517
 80518
 80519
 80520
 80521
 80522
 80523
 80524
 80525
 80526
 80527
 80528
 80529
 80530
 80531
 80532
 80533
 80534
 80535
 80536
 80537
 80538
 80539
 80540
 80541
 80542
 80543
 80544
 80545
 80546
 80547
 80548
 80549
 80550
 80551
 80552
 80553
 80554
 80555
 80556
 80557
 80558
 80559
 80560
 80561
 80562
 80563
 80564
 80565
 80566
 80567
 80568
 80569
 80570
 80571
 80572
 80573
 80574
 80575
 80576
 80577
 80578
 80579
 80580
 80581
 80582
 80583
 80584
 80585
 80586
 80587
 80588
 80589
 80590
 80591
 80592
 80593
 80594
 80595
 80596
 80597
 80598
 80599
 80600
 80601
 80602
 80603
 80604
 80605
 80606
 80607
 80608
 80609
 80610
 80611
 80612
 80613
 80614
 80615
 80616
 80617
 80618
 80619
 80620
 80621
 80622
 80623
 80624
 80625
 80626
 80627
 80628
 80629
 80630
 80631
 80632
 80633
 80634
 80635
 80636
 80637
 80638
 80639
 80640
 80641
 80642
 80643
 80644
 80645
 80646
 80647
 80648
 80649
 80650
 80651
 80652
 80653
 80654
 80655
 80656
 80657
 80658
 80659
 80660
 80661
 80662
 80663
 80664
 80665
 80666

東屋

六 煙、弁の尼と語る（日暮れもていけば、君もやをら出でて）

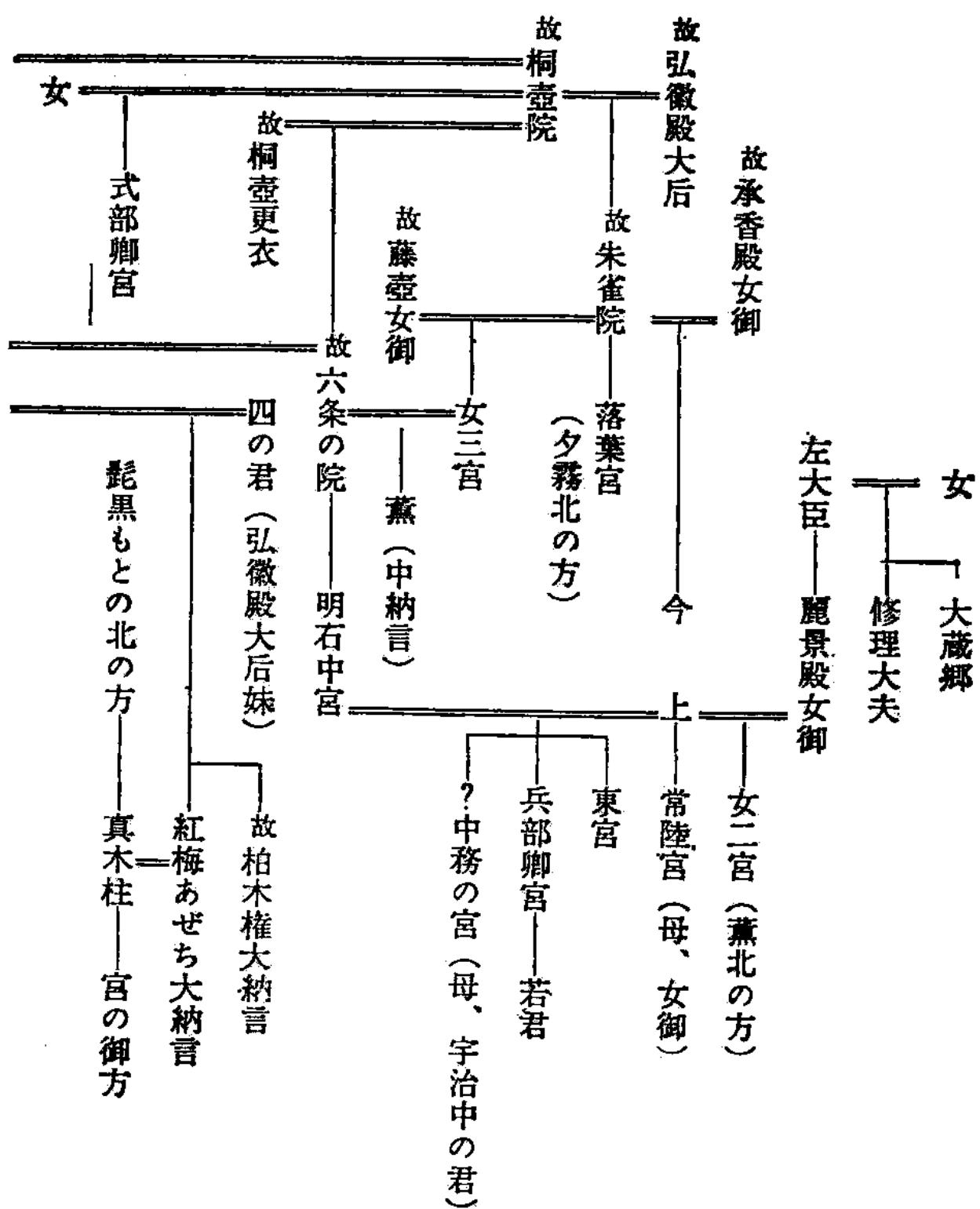
- 一 薫ためらい、母親動かず（筑波山を分け見まほしき御心は）
 二 母親、つれ子を愛する（守の子供は、母なくなりにけるなど）
 三 常陸の守の生活ぶり（守もいやしき人にはあらざりけり）
 四 左近の少将と婚約。守は実の娘につくす（この母君、あまたかよ）
 五 母親、つれ子であることを少将に言う（かくてかの少将、わざり）
 六 少将怒る（はじめよりさらば、守のみむすめにあらず）
 七 少将、実の娘との結婚を望む（この人追従あり、うたてある人の）
 八 仲人、守に語る（この人は、妹のこの西の御方にあるたよりに）
 九 守、喜んで実の娘を少将に与える（守、さらに、かゝる御消息）
 一〇 仲人、少将をほめる（よろしげなめりと、うれしく思ふ）
 一一 守の約束（このごろの御徳などの、心もとなからむことは）
 一二 少将喜ぶ（守の言ひつる事を、いとも／＼よげにめでたし）
 一三 母親、結婚の準備。守に破談を聞く（北の方は人知れずいそぎ立）
 一四 母親と乳母と喫く。乳母、薰をすすめる（こなたに渡りて見るに）
 一五 母親の反論。その男性觀（あな恐ろしや。人の言ふを聞けば）
 一六 守、実の娘と少将との結婚準備（守はいそぎ立ちて、女房など）
 一七 母親、中の宮に文をおくる（母君、御方の乳母、いとあさましく）
 一八 中の宮、大輔の言に従って、妹を預かる（大輔がもとにも、いと心）
 一九 少将の結婚（守、少将のあつかひを、いかばかりめでたき事をせむ）
 二〇 母子、中の宮邸に行く（この御方さまで、數まへ始ふ人のなきを）

- 二 母親、匂宮をすき見する（宮わたりたまふ。ゆかしくて）
 三 母親の心動く（帳の内に入り給ひぬれば、若君は）
 四 匂宮邸における少将（宮、日たけて起き給ひて、きさいの宮）
 五 母親、中の宮に匂宮をほめる（女君の御前に出で来て）
 六 薫のうわさ話（よさや、やうのものと、人笑はれる心地せまし）
 七 母親、つれ子の不運を嘆く（こまかにはあらねど、人も聞きけり）
 八 薫、来訪。母親すき見する（かたちも心ざまも、え憎むまじう）
 九 中の宮、薰に妹をすすめる（例の、物語いとなつかしげに）
 十 母親、薰をほめる（さらば、その客人に、かゝる心の願ひ）
 十一 中の宮、薰をすすめる（君は、しのびて宣ひつる事を）
 十二 早朝に母親は帰る（明けぬれば、車などゐて来て）
 一 母親の車を見とがめる（車引きいつる程の少し明う）
 二 匂宮帰邸、母親の車を見とがめる（車引きいつる程の少し明う）
 三 匂宮、寝殿で来客と日を暮らす（明くるも知らず大殿籠りたるに）
 四 中の宮洗髪、匂宮徒然（夕つ方、宮こなたに渡らせ給へれば）
 五 薫、女を見つける（若君も寝給へりければ、そなたに）
 六 乳母あらわれる（乳母、人げの例ならぬを、あやし、と思ひて）
 七 匂宮、女を見つける（若君も寝給へりければ、そなたに）
 八 右近きたる（大殿油は燈籠にて、いま渡らせ給ひなむ）
 九 右近、中の宮に報告（右近、上に、しかぐこそおはしませ）
 一〇 御所より使者、中宮御病氣（上達部あまた参り給へる日にて）
 一一 やむなく匂宮立ち去る（参りて、御使の申すよりも）
 一二 乳母なぐさめる（君は、たゞ今は、ともかくも思ひめぐらされず）
 一三 匂宮参内（宮はいそぎて出で給ふなり）

四 中の宮、妹を呼びよせる（うへ、いとほしく、うたて思ふらむ）
 五 乳母、右近に弁解（この君は、まことに心地も悪しくなりにたれど）
 六 中の宮なぐさめる（われにもあらず、人の思ふらむことも）
 七 中の宮、絵を見せる（絵など取り出でさせて、右近に）
 八 姉妹の寝物語、侍女の推測（物語などし給ひて、あかつきがたに）
 九 乳母、母親に報告、母親はせつける（めのと、車こひて、常陸殿）
 一〇 三条の小家に入る（かやうの方たがへ所と思ひて）
 一一 母親、少将に歌をよみかける（少将のあつかひを、守は）
 一二 母親、薰の求婚を考慮（故宮の御こと聞きたるなめり、と思ふに）
 一三 三条のわび住まい（たびの宿りはつれぐにて、庭の草も）
 一四 薰、宇治の新築を見る（かの大将殿は、例の、秋深くなりゆく頃）
 一五 弁より報告を受け、仲介を命ずる（やり木のはとりなる岩に）
 一六 薰、帰京、女二の宮に土産（暗うなれば出で給ふ。下草の）
 一七 吾 弁の尼、三条に来る（宣ひしまだつとめて、むつまじく思す）
 一八 天 薰、来訪（宵うち過ぐる程に、宇治より人参れり）
 一九 玄 翌朝、宇治とともに（程もなう明けぬる心地するに、とりなどは）
 二〇 道中、姫宮を思う（近き程にや、と思へば、宇治へおはする）
 二一 太 字治に着く（おはしそぎて、あはれ、なき魂ややどりて見給ふらむ）
 二二 入道の宮と女二の宮に手紙をおくる（殿は京に御文書き給ふ）
 二三 茶 薰、善後処置に苦慮（うちとけたる御有様、今すこしをかしけて）
 二四 琴を調べ、女と語る（こゝにありける琴、等の琴召し出でて）
 二五 弁の尼より菓物と歌（尼君の方よりくだもの参れり、箱の蓋に）

索年補校
引立注異

卷之五



あづまや・やどりき・さわらび

